



鶏 鳴

けいめい

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」

聖書(ローマ書12章15節)

牧師 河合裕志

喜ぶ人と共に喜ぶ。よい学校に入れた、よい会社に入れた、出世した、よい伴侶を得た、子が生まれた、病気がなおった…いろんなことで人は喜ぶ。そしたらそれを自分のことのように喜ぶ。おめでとう、よかったね、嬉しいよ、こう言って喜び合う。これはとてもよいこと。喜ぶ人の喜びは倍加する。

今度は逆に泣く人と共に泣く。受験に失敗した、希望する会社に採用されなかった、なかなかよいポストが得られない、彼女に・彼に振られた、負傷した、病気になった、愛する者が死んでしまった…こうしたことは悲しい出来事。大変に残念だ、私も悲しいよ、こう言って共に涙する。そうすれば泣く人の悲しみは半減する。

共に喜び共に泣く、これは親しい家族や友人の間では普通に湧いてくる感情、心の動きかも。あるいは更に広く、特に利害関係のない人に起った喜び、悲しみもわが事のように喜んだり、同情を寄せたりすることがあるのでは？オリンピックで金メダル、これは多くの人が喜ぶ。地震で被災した人々を見るととても気の毒に思われてくる。

問題は自分が好きでないと思っている人の場合。あるいは利害関係にある、敵対関係にあるといった人が今、喜んでいて、今、

泣いている状態を見たら私達はどうか反応するか、ということ。

この場合にはずっと喜べないんじゃない？泣けないんじゃない？反ってザマを見る、いい気味だ、と思ったり言ったりするのは？自分が反感を覚える人の失敗や不幸を鬼の首をとったように喜ぶ。こういう傾向が確かに見られる。これがナマミの人間というもの。それでどこが悪い？

ただパウロのこの言葉には特に限定はない。こちら側の人間、あちら側の人間という区別はなさそう。どっち側の人間であっても共に喜べ、共に泣け、と。

どうしたらそんな人間離れしたことが可能になる。誰の喜びでも悲しみでも自分のことのように喜べる、悲しめる、そんな分け隔てない、広い心の持ち主になれば、それはそれこそ神でないが無理ではないか？

まさにそれは父なる神、またイエス・キリスト。神とキリストは私を含めた全ての人間の喜びと悲しみを共にしてくれる。このことを深く知る程に私達の心は広くされる。共に、の思いが強められる。広い愛の心が持てれば幸い。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時